



ふじの実

<教育目標>
 ○思いやりの心を持ち、協力し合う子
 ○深く考え、工夫して学習に取り組む子
 ○進んで体をきたえ、ねばり強くやりぬく子

〒942-0061上越市大字春日新田1274
 TEL.025-543-4256、543-4172
 FAX 025-543-0089

進んで取り組む子どもに

校長 大山 賢一

1年で一番長い2学期が、終わろうとしています。そして、子どもたち一人一人に、成長が見られます。元気のよい挨拶をする子どもや友達を思いやる優しい子どもが増えました。ズボン下ろしなどのいじめが減少しました。このように、体の成長とともに心の成長が見られます。皆様は、どのように子どもたちをとらえていますか。



紙すきを体験するする6年生

6年生は、11月12日から13日に、石川県・福井県へ修学旅行に行ってきました。私をはじめ初めて訪れる子どもが多く、自分で選んだコースを仲間とともに回りました。1日目は、コウゾの皮から作った繊維で越前和紙の紙すきをしたり、日本自動車博物館でクラシックカーの見学やセグウェイの乗車をしたりと、様々な体験をしました。夜は、観光スペシャルガイドの香村幸作様から、上越市と石川県のかかわりや石川県の歴史について講演していただきました。2日目は、加賀友禅の型染体験や純金の金箔はりなど、自分が決めた体験をした後、金沢商業高校の高校生から兼六園のボランティアガイドをしていただきました。その後は、金沢21世紀美術館や近江町市場などの見学をしてから、北陸新幹線に乗って帰ってきました。



高校生の案内で兼六園を見学

2日間でしたが、子どもたちはリーダーに協力しながら集団行動をし、様々な地域を回って、多くの体験をしました。自分の目で上越市とは異なる社会を見つめ、訪問した地域の人とかかわって、その人の思いや生き方にふれ、これからの上越市や自分の在り方を考える機会になりました。また、家族から離れて2日間過ごすことを通して、どの子どもも一回り成長した修学旅行になりました。

私たちは、初めてのことに取り組むとき、心配や不安な気持ちになるものです。しかし、取り組んだ後には、やり遂げた成就感と自信が生まれ、次への活動意欲が高まります。大人も子どもも、いろいろな体験が人を育てるのです。

家庭生活や子ども会行事など地域の活動においても、子どもがいろいろなことに挑戦できるものを用意し、自ら進んで取り組むようにしましょう。大人は、子どもの成長を楽しみに、見守りと励ましと称賛をしたいものです。

第2回 春日新田小学校運営協議会を行いました

平成27年11月9日(月)に、学校運営協議会委員9名、直東学園運営協議会委員1名、学校職員30名が参加し、第2回春日新田小学校運営協議会を開催しました。今回は、1学期の取組の成果と課題、今後の取組について、①豊かな心プロジェクト②学力向上プロジェクト③健康プロジェクト④研究推進⑤全国学力調査の結果の5部門から報告をしました。その後、課題の解決のために「学校、家庭、地域、それぞれの立場から何ができるか、誰が進めていくか」など、具体的な話し合いが行われました。今回協議されたことをもとに、具体的な取組を進めていきます。

また、3学期の学校運営協議会において、学校関係者評価と来年度の学校運営の基本方針について話し合う予定です。

①豊かな心プロジェクト

～自分は役に立っている、認められていると思えるにはどうしたらいいか～

やはり「認められている」と子どもたちが思えるには、まずあいさつからではないか。あいさつがしっかりできることで、学校・家庭・地域での居場所ができる。まずそこから始める必要がある。その上で、それぞれの場でのほめる声掛けや感謝の気持ちを伝える場をつくっていくとよいのではないか。



このように、多くの意見をいただきました。そして、これから下のように取り組むことにしました。

【地域】

- *大人向けのあいさつ運動や普段の街頭指導等で大人も子どもも顔見知りになる。そこで、あいさつプラス1運動(あいさつとともに一言ほめるなどの声掛けを行う)をする。
- *地域行事で町内会長さん、役員さんから働きかけ、子どもの役割をつくる。その場で、「ありがとう」などのほめる声掛けを行う。

【保護者】

- *家族であいさつをする。家族との会話を多くする。
- *子どもが家での手伝いをとおして、家族のために自分の役割を果たし、その様子について保護者がほめる。

【学校】

- *一人一役の当番活動の場や友達の頑張りやよいところを紹介し合う場を作る。
- *上学年があいさつをしっかり行い、リーダーシップを発揮できるよう、教師から『メッセージ』(私はうれしかったよ、などの声掛け)を行う。

②学力向上プロジェクト

～算数の活用力を高めるためにはどうしたらよいか～

「算数の活用力」といっても、結局は「しっかり会話ができる」「文章を読み解く」などができていないことが根底にある。「算数」などの学習となると、すぐに学習ボランティア的な内容になるが、地域は専門家ではないので内容を教えるというよりは、学習の場を整えることやデータ分析の視点の検討等のボランティアができるのではないか。これらの意見を踏まえ、下のように取り組むことにしました。



【地域】

- *人の心を読んだり、文章を読み解いたりすることができるようにするために、地域で環境を整える。(本を読んだり勉強したりできる場の提供。ちょっとしたことを教えてあげられる場にしていく。)
- *学校の学力分析の内容・まとめ方についてのアドバイスを行う。

【保護者】

*伝わるから、理解できるからよいのではなく、主語をきちんとつけて、正しい言葉遣いで家庭での会話をしっかり行う。

【学校】

*条件や指示に合わせた作文を書いたり、問題を解いたりする。
*家庭へのお願いを積極的に発信する。(具体的な宿題に対する教え方のアドバイスなど)

③健康プロジェクト

～進んで健康な生活をするにはどうしたらよいか～

テレビやゲーム、携帯電話やスマートフォンなどの使用時間の多さやネットトラブルなど、子どもを取り巻く環境に対して早急に対応しなくてはならない、保護者が把握できていないことがとても多い、地域では体力向上の部分でラジオ体操を中心に取り組んだらよいのでは、という意見をもとに、下のように取り組むようにしました。

【地域】

*各町内で、地域の人も夏休み中にラジオ体操に参加する。
*やっていない地域もあるので、どの地域でも推進する。

【保護者】

*メディアを使用する際のモラルを含めて、約束を決める。
*親がきちんと管理、チェックをする。LINEなどをできるものは与えないという方法もある。

【学校】

*PTA主催のメディアに関する研修会を今年中にまず開催する。
*親も子どもも参加するメディアに関する勉強会を開催する。

生徒指導コラム

11月、「新潟県いじめ見逃しゼロ月間」です。学校では、「いじめはどの子どもにも、どの学級でも起こりうる」という認識をもち、学級づくりを見直すとともに、「いじめをしない、させない、見逃さない」気持ちを高めるための取組を行っています。

いじめは大きな社会問題です。また近年は、ネットによるいじめが増えています。子どもたちがインターネットや情報機器をどのように使っているかを確認し、正しく利用させることが必要です。

11月20日、直江津東中学校で、いじめ見逃しゼロスクール集会が行われました。中学校区の小学6年生と中学1年生がグループになり、いじめについて意見を交換し合いました。そして、いじめをさせない、見逃さないために自分たちができることを話し合い、どんなことに取り組むかをグループごとに決めました。決めたことをどう実践するか、実践できるかが今後の課題だと思います。



子どもたちがいじめの被害者にも加害者にもならないようにするために、ご家庭でもいじめについて話し合ってみてください。

読書旬間 10月26日～30日



春日新田小学校では、10月26日から30日まで、校内読書週間を行いました。期間中は、図書委員会や図書ボランティアを中心として、さまざまな取組をしました。

「読書の輪」の取組では、縦割り班の4、5、6年生が本を選び、ペアの1、2、3年生に読み聞かせをしました。下学年のために本の持ち方や読み方を工夫する上学年の優

しい姿がありました。下学年は、じっと話に聞き入り、落ち着いた雰囲気の中で物語の世界を楽しむ姿が見られました。読み聞かせの後にはお互いにメッセージカードを交換し、親交を深めました。

図書委員会の子どもたちは、自分のおすすめの本を紹介したり、いろいろなジャンルの本に親しめるようなビンゴカードを用意し、全校児童に読書を勧めたりしました

図書ボランティア「おはなしかあさん」による「おはなしかい」も行われました。今年も上学年向け・下学年向けと会場を分けましたが、どちらの会場も大盛況でした。

また、「親子読書」も実施しました。親子で読み聞かせをしたり、同じ本を読んで感想を話し合ったりと、家族で本に親しむ機会をもてたのではないのでしょうか。ご協力ありがとうございました。この取組をきっかけとして、子どもたちにはぜひこれからも本に親しみ、物語の世界を楽しんでほしいと思います。



<ペア学年に読み聞かせ>

<おはなしかい>

春新オータムフェスタ2015にご参加ありがとうございました!

11月7日(土)、児童を含め、保護者、地域の方々など、昨年を上回る1100人以上にお出でいただき、直江津東地域青少年育成会議とPTAがともに企画した「春新オータムフェスタ2015」が開催されました。「子どもたちに体験を通して、楽しさや充実感を味わってほしい」という願いから、各ブースでは、PTA



<ペットボトル空気砲での当>

A専門部の方々が何度も打合せを行ったり、作品がうまくできるか、実験を繰り返したりするなど、入念な準備をして当日を迎えました。ものづくりやアトラクションの他にも地域の方々からご寄付いただいたバザーや父親委員会の方から「きもだめし」をしていただいたりと、盛りだくさんの内容でした。

企画、運営して下さった役員の皆様、ご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。とても活気のある一日でした。



<美しく幻想的なイルミネーション>